地域と世界のきずな

今月号の世界 ◀8か国

アジア・アフリカ

今回参加したのはインド、インドネシア、マダガスカル、モンゴル、スリランカ、ウガンダ、ベトナム、ザンビアの8か国の研修員。多くが国の農業関係の省庁で働いている。研修の後、得たものを自国に持ち帰り、どう展開していくのかは彼らの肩にかかっている。

今月号の地域 北海道▶

十勝

十勝地方は、北海道東部に広がる19市町村からなる地域。どこまでも広がる大地、年間2,000時間を超える日照時間という恵まれた自然環境を背景に、農業、畜産、林業、水産業が地域産業の大きな柱として育ち、北海道の中でも有数の食料生産基地となっている。

酪農とつながる多様な事業を教えたい！

バリューチェーンによる酪農振興を学ぶ

北海道十勝地方で、JICAと帯広畜産大学が連携して取り組む研修が行われている。
キーワードは、バリューチェーン。十勝での実例に触れながら、
今の自分たちにできることを考える研修となった。

文●久島玲子（編集部）

牛舎での管理なども視察した

上:十勝を代表する風景。どこまでも続く大地は圧巻で、日本有数の食料生産基地だというのもうなずける。©Shutterstock.com／右:湖水地方牧場では、白いツナギを着て牧場の作業を手伝った

地域の特性を生かし、JICAの研修事業が行なわれている十勝。なかでもバリューチェーンの整備を通じた農村振興コースは、1987年に始まった酪農振興コースをルーツとする息の長いプログラムだ。今年も6月から1か月半にわたって8人の研修員が訪れ、地域の大学や生産者の協力を得て、さまざまなことを学んだ。

幅広く視察し、十勝・北海道のバリューチェーンを知る

「途上国での酪農の生産性向上、循環型畜産システムの構築、持続可能な農村振興と、その時々でテーマをブラッシュアップしていて、2016年からはバリューチェーンの整備を通じた農村振興を研修テーマにしています」と言う帯広畜産大学の手塚雅文（まさふみ）さん。長年この研修に携わり、この数年はコースリーダーとして研修プログラムを作っている。「生産性や品質を上げても販売先がなければ、持続的な酪農はできませんし、農村からどんどん人が都会へ出てしまいます。そこで、生産から消費者までというバリューチェーンを意識し、農畜産物に付加価値をつけ、流通を整備すれば地方に雇用も生まれます。それをこの研修で学んでほしいと思います」。

研修の内容は幅広い。酪農技術の勉強や十勝の酪農家・乳業メーカーの視察はもちろん、ワイナリーや醤油工場を見学するのは、いずれの企業でも製造過程で出る食品残渣（ざんさ）（ワインや醤油の搾りかす）が家畜のエサに利用されているからだ。

放牧酪農を行うありがとう牧場で、牧場主の話を聞く研修員

右:醤油かすが家畜の飼料に使われている福山醸造トモエ醤油工場を見学／下:帯広畜産大学では単元目標を設定して、演習・討議を行いアイデアを活性化させる。前列右から2人目が手塚さん

自国の今ある技術を、十勝で学んだことにどうつなげるのか――それを考えることが、バリューチェーンを築く第一歩になります

牛糞からバイオガスを作り、その排熱でマンゴーを栽培したり、チョウザメを養殖してキャビアを作ったりする取り組みも見学対象だ。「酪農とほかの食品製造やエネルギーのバリューチェーンがつながって新しい事業が展開できることがわかるはずです。こうした事例を知ることで『隣の畑で廃棄される野菜が、牛の餌になるかもしれない』『牛の糞を有効利用できるかもしれない』と意識が変わっていきます」。

牛乳からチーズやヨーグルトを作り、生産だけでなく加工や販売にも取り組む6次産業化の研修では、できるだけ小規模な事業者を見学するようにしている。「研修員は自国に戻ると、牛乳なら1日に200～300キロを扱うくらいの集落単位のマーケットを相手にすることが多いと聞きます。その時に役に立つ規模の事業を選んでいます」。観光農場や農家レストランなどにも足を運ぶ。都会から来た人たちが収穫体験をし、自分で採った作物をおいしいと言って食べる姿は、消費者が農業を理解することの必要性を研修員に伝えてくれる、と手塚さんは言う。

大切なのは人と人とのつながり

「こうした研修ができるのも、十勝という場所があってこそ。十勝の農畜産の歴史は長く、バリューチェーンの構築や6次産業化に取り組んできた実績から学ぶことが多い」と手塚さん。ただ、蓄積されたノウハウをそのまま持ち帰るのではなく、自国の今ある技術とどうつなげればいいのかを考えてほしいとも言う。「バリューチェーンとは、つまりは人と人とのつながりです。生産から消費までの全体を俯瞰し、弱い部分を見つけ、その部分をつなげる人を探す。それがバリューチェーンを築いていく一歩になるはずです」。

研修員は行政や政府関係の人が多く、彼らが自国に戻ったからといってすぐにバリューチェーンが整備されるわけではない。しかし、変わっていくのはこれからだと、手塚さんは明るく未来を見ている。「今は種を蒔き、少し芽が出てきたくらいですが、正しい流れはできてきていると思います。十勝でもそうでしたが、バリューチェーンはどこかで一つうまくいき始めると、それがドミノ倒しのように連鎖し始めるので、これからに期待できると思います」